

JR北労組は、5月に北鉄労から23歳の青年の拡大と今年度の新規採用者の加入を果たしたが、9月1日、再び今年度の新規採用者1名の加入を勝ちとった。

JR北労組に 今年度の新規採用者が加入!

今回、JR北労組に加入したのは苗穂工場の組立職場に配属となった今年度の新規採用者だ。これでJR北労組への今年度の新規採用者の加入は、5月に岩見沢管理室に配属された青年に続き二人目となった。

JR北労組は、「引き続き、今年度の新規採用者への働きかけを続けるとともに、過年度採用にも声掛けを行うなど、組織の固定化を許さず、組織拡大に全力を挙げよう」と各級機関に呼びかけている。

会社から危険視扱いされる東労組! 実に不幸な労使関係の象徴!

会社との間で「ローカルルール是正」問題をめぐって対立している東労組は、あらたに東京支社で発覚した指導操縦者の人選報告用紙に「組合色」なる項目が記載されていたことに対して、組合役員排除を意図する不当労働行為であるとして猛反発している。

6月に開催された東労組第28回定期大会で、千葉委員長は「社員の組合活動について調査し、人事運用に反映させるなどは明らかに不当労働行為だ。本部は、会社に責任ある見解と対応を求めていく。本部・本社間で議論しても結論が得られなかった場合には、第三者機関の判断を仰ぐことも含めて考えざるを得ない」と述べ、会社との対決姿勢を鮮明にした。

この問題が顕在化したことにより、本来「経営のパートナー」であるべき多数派組合＝東労組を「リスク要因」として捉えるJR東日本会社の認識があらためて浮き彫りになった。会社の狙いは、「組合とはほどほどに付き合っているのが賢い生き方」という功利主義的社員＝「組合無関心層」を育成することにあるものと推察されるが、このように会社から危険視扱いされる労働組合＝東労組というのは我が国の中でも希有な存在ではないだろうか?

社業の発展にむけ労使の信頼関係が構築できないJR東日本の現状は実に不幸としか言いようがない。その原因は、革マル派の浸透が指摘される東労組の存在そのものにあるのは間違いない。

JR連合は、2009年に『あるべき労働組合像・労使関係像』を内外に明らかにし、JR連合への総結集を呼びかけた。国鉄改革から四半世紀が経過したにもかかわらず、JRグループで最大のJR東日本において、いまだに成熟した労使関係が構築でき得ていない現状を打破するために、「あるべき労使関係」の創造にむけ、胸襟を開いた対話をJR東日本に求めるものである。